看護技術到達確認表
-----------

No 1

- ■卒業時の到達度レベル
- Ⅰ:単独で実施できる Ⅱ:指導のもとで実施できる Ⅲ:学内演習で実施できる Ⅳ:知識としてわかる
- ●評価レベル

説明:説明ができる 見学:見学をした 経験:指導者とともに実施した 実施:指導者のもとで単独で実施した 記入例 ★記入方法 1. 各技術項目は説明·見学·経験·実施のレベルで評価する。

2.3年次の各領域での実習時に各技術項目がどのレベルで習得できているのかを評価した日付を記入する。

氏名

3. 評価の記入後は担当教員の確認を得る。

学籍番号

4. 最終評価は、卒業時の到達度レベル(I~Ⅳ)に到達しているかどうか○または×で評価する。

	技術の種類		基礎実習	習終了後			領域実			卒業時の	最終評価				
	1文例の1生段	説明	見学	経験	実施	説明	見学	経験	実施	説明	見学	圣験	実施	到達度	政心計画
環境	1 患者にとって快適な病床環境を作ることができる	I 3/8			i		成6/15、母7/8	老10/5、精11/8						I	0
1 調整	2 基本的なベッドメーキングができる		I 3/7 II 2/22		i		/\\7/28	成6/20						I	0
技術	3 看護師・教員の指導のもとで、臥床患者のリネン交換ができる			Ⅱ 2/21	i		成6/28、在9/10				8,5	月5日		П	×

	技術の種類				基础	<b>基実習終了後</b>		1		領域	実習終了後			卒業時の	E WET IT			
			技術の種類	説明	見学	経験	実施		説明	見学	経験	実施	説明	見学	習終了後 経験	実施	到達度	最終評価
	環 境	1	患者にとって快適な病床環境を作ることができる	į													I	
1	術調	2	基本的なベッドメーキングができる	į													I	
	整 技		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者のリネン交換ができる	į	l	İ											п	
		4	患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)														I	
		5	患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	į													I	
		6	経管栄養法を受けている患者の観察ができる	!													I	
	食	7	看護師・教員の指導のもとで、患者の栄養状態をアセスメントできる	!													I	
	事の	8	看護師・教員の指導のもとで、患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	:													I	
2	援助	9	看護師・教員の指導のもとで、患者の個別性を反映した食生活の改善を計 画できる	i i		i											I	
	技 術	10															п	
		11	モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる														ш	
		12	電解質データの基準値からの逸脱がわかる	į													IV	
		13	患者の食生活上の改善点がわかる														IV	
		14	自然な排便を促すための援助ができる	į		1											I	
		15	自然な排尿を促すための援助ができる	į		- !											I	
		16	患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	į	İ	i											I	
		17	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	i i	l i												I	
		18	看護師・教員の指導のもとで、ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	i		i											I	
	排 泄	19	看護師・教員の指導のもとで、患者のおむつ交換ができる	į													I	
3	援助	20	看護師・教員の指導のもとで、失禁をしている患者のケアができる	į		i											I	
	技術	21	看護師・教員の指導のもとで、膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカ テーテル固定、ルート確認、感染予防の管理ができる														П	
		22	モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	!													ш	
		23	モデル人形にグリセリン浣腸ができる			l i											ш	
		24	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	į													IV	
		25	基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	į													IV	
		26	ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	İ		i											IV	
		27	患者を車椅子で移送できる	; !													I	
	活動	28	患者の歩行・移動介助ができる	i													I	
	動 •	29	廃用性症候群のリスクをアセスメントできる														I	
4	休 息 援	30	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	i													I	
	助	31	患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる														I	
	技 術	32	看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の体位変換ができる	!													I	
		33	看護師・教員の指導のもとで、患者の機能に合わせてベッドから車椅子へ の移乗ができる	į													I	

## 学籍番号

■卒業時の到達度レベル

Ⅰ:単独で実施できる Ⅱ:指導のもとで実施できる Ⅲ:学内演習で実施できる Ⅳ:知識としてわかる

●評価レベル

説明:説明ができる 見学:見学をした 経験:指導者とともに実施した 実施:指導者のもとで単独で実施した

★記入方法 1. 各技術項目は説明・見学・経験・実施のレベルで評価する。

2. 3年次の各領域での実習時に各技術項目がどのレベルで習得できているのかを評価した日付を記入する。

氏名

- 3. 評価の記入後は担当教員の確認を得る。
- 4. 最終評価は、卒業時の到達度レベル(I~Ⅳ)に到達しているかどうか○または×で評価する。

				基礎実習終了後								領	或実習終了後	一直は、千木町の町	達度レヘル(1~11/1~11/1)	T	統合実習	次業時の			
			技術の種類	説明		見学		経験	実	<b>E施</b>	説明	見学	X117.0	経験	実施	説明	見学	経験	実施	卒業時の 到達度	最終評価
			看護師・教員の指導のもとで、廃用性症候群予防のための自動・他動運動 ができる																	П	
	活動	35	看護師·教員の指導のもとで、目的に応じた安静保持の援助ができる																	П	
	* 休	36	看護師・教員の指導のもとで、体動制限による苦痛を緩和できる	ļ		!		!												п	
4		37	看護師・教員の指導のもとで、患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	ļ		ļ		ļ i		! !										П	
	助	38	看護師・教員の指導のもとで、患者のストレッチャー移送ができる	į		i		İ		i										П	
	技 術	39	看護師・教員の指導のもとで、関節可動域訓練ができる	i		i		i		i										п	
		40 J	発用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	İ				İ		İ										IV	
		41	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる					!		!										I	
		42	患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	İ		İ				!										I	
		43	青拭援助を通して、患者の観察ができる	ļ		ļ		!												I	
		44	先髪援助を通して、患者の観察ができる	ļ		ļ														I	
	j	45	口腔ケアを通して、患者の観察ができる	ļ		ļ		İ												I	
	清潔	46	患者が身だしなみを整えるための援助ができる	ļ																I	
	· 衣	47	輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換ができる																	I	
5	生活	48	看護師·教員の指導のもとで、入浴の介助ができる	ļ		ļ		!		!										п	
	援助	49	看護師・教員の指導のもとで、陰部の清潔保持の援助ができる	į		į		İ												п	
	t±	50	看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の清拭ができる	i		i		İ		i										п	
		51	看護師・教員の指導のもとで、以床患者の洗髪ができる	i		i				<u> </u>										п	
	Ī	52	看護師・教員の指導のもとで、意識障害のない患者の口腔ケアができる	İ		i		<del> </del>												п	
	Ī	53	看護師・教員の指導のもとで、患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計 画できる	i		i		i												п	
	Ī	5/1	ーミン 青護師・教員の指導のもとで、輸液ラインなどが入っている患者の寝衣交換 ができる	i		i		İ		i										п	
	Ī		・ ここ 3 信護師・教員の指導のもとで、沐浴が実施できる	İ		İ		İ												п	
		56	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	į		į		İ		i										I	
	Ī	57	患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法ができる					<u> </u>												I	
	Ī	58	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる					<u> </u>		!										I	
	Ī	59	末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる																	I	Ī
	呼	60	看護師・教員の指導のもとで、酸素吸入療法が実施できる																	п	
	吸循環	61	看護師・教員の指導のもとで、気管内加湿ができる	i		i		<u> </u>												п	
	環を	62	Eデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる																	ш	Ī
6	を整える	63	モデル人形で気管内吸引ができる					<u> </u>												ш	
	える 技	64	Eデル人形あるいは看護学生間で体位ドレナージを実施できる					1		!										ш	
	技 術	_	学内演習で酸素ボンベの操作ができる					<u> </u>												ш	
	ŀ	66	気管内吸引時の観察点がわかる																	IV	
	j	67 .	人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる																	IV	
	ŀ	68 1	氏圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる																	IV	
	j	69 1	盾環機能のアセスメントの視点がわかる																	IV	
7	褥	70	患者の褥瘡発生の危険をアセスメントできる					1		i										I	
	瘡 管理		看護師·教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが計画できる	<u> </u>		i	+	<del> </del>												п	
	理技	-	看護師・教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが実施できる	+	-+	<del>-  </del>	+	<del> </del>		<del>!  </del>						1				п	
$\Box$	術	,,	日以来、12名の10年の000、1226年12月2011年12月21日日の12日日の12日日の12日日の12日日の12日日の12日日の12	!		- !		!													1

学籍番号

氏名

## ■卒業時の到達度レベル

- Ⅰ:単独で実施できる Ⅱ:指導のもとで実施できる Ⅲ:学内演習で実施できる Ⅳ:知識としてわかる
- ●評価レベル

説明:説明ができる 見学:見学をした 経験:指導者とともに実施した 実施:指導者のもとで単独で実施した

- ★記入方法 1. 各技術項目は説明·見学·経験·実施のレベルで評価する。
  - 2. 3年次の各領域での実習時に各技術項目がどのレベルで習得できているのかを評価した日付を記入する。
  - 3. 評価の記入後は担当教員の確認を得る。
  - 4. 最終評価は、卒業時の到達度レベル(I~Ⅳ)に到達しているかどうか○または×で評価する。

			技術の種類		基礎	実習終了後			領域実	習終了後			統合実習	冒終了後		卒業時の 到達度	最終評価
$\vdash$	<b>1</b> =			説明	見学	経験	実施	説明	見学	経験	実施	説明	見学	経験	実施		政心口Ш
	褥 瘡	73	看護師・教員の指導のもとで、患者の創傷の観察ができる	-												П	J
1 '	管 理 技	74	学生間で基本的な包帯法が実施できる													Ш	
	術		創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる													IV	
		76	看護師・教員の指導のもとで、経口薬(バッカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬 後の観察ができる	!												п	
		77	看護師・教員の指導のもとで、経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	!												п	
		78	看護師・教員の指導のもとで、直腸内与薬の投与前後の観察ができる													п	
		79	看護師・教員の指導のもとで、点滴静脈内注射を受けている患者の観察点 がわかる	-												п	
		80	モデル人形に直腸内与薬が実施できる													ш	
		81	学内演習で点滴静脈内注射の輸液管理ができる													ш	
		82	モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる													ш	
		83	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	i												ш	
		84	モデル人形に点滴静脈内注射ができる	İ												ш	
		85	学内演習で輸液ポンプの基本的な操作ができる	j												ш	
		86	経口薬の種類と服用方法がわかる	i												IV	
	与 薬	87	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	İ												IV	
8	が放	88	中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる													IV	
	術	89	皮内注射後の観察点がわかる													IV	
		90	皮下注射後の観察点がわかる													IV	
		91	筋肉内注射後の観察点がわかる													IV	
		92	静脈注射の実施方法がわかる													IV	
		93	薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性がわかる													IV	
		94	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる													IV	
		95	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる													IV	
		96	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	i												IV	<b></b>
		97	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる													IV	<b></b>
		98	<b>麻薬を投与されている患者の観察点がわかる</b>													IV	<b></b>
		99	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる													IV	
Ц		100	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる													IV	ļ
	ļ	101	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる		1 !											I	<u> </u>
		102	看護師・教員の指導のもとで、患者の意識状態を観察できる	!		<u> </u>										П	ļ
	救命	103	モデル人形で気道確保が正しくできる													ш	ļ
9	救急	104	モデル人形で人工呼吸が正しくできる													ш	ļ
	急処置技術	105	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しくできる													Ш	<u></u>
	術	106	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる													ш	ļ
	F		意識レベルの把握方法がわかる													IV	ļ
		108	止血法の原理がわかる													IV	<b></b>
	機症	-	バイタルサインが正確に測定できる	i	1 !	<u>                                     </u>										I	<u> </u>
10	機能管理技術症状・生体	110	正確に身体計測ができる	i	1 !	<u> </u>						<u> </u>				I	<b></b>
	術体	111	患者の一般状態の変化に気付くことができる													I	į.

学籍番号

氏名

## ■卒業時の到達度レベル

Ⅰ:単独で実施できる Ⅱ:指導のもとで実施できる Ⅲ:学内演習で実施できる Ⅳ:知識としてわかる

## ●評価レベル

説明:説明ができる 見学:見学をした 経験:指導者とともに実施した 実施:指導者のもとで単独で実施した

- ★記入方法 1. 各技術項目は説明・見学・経験・実施のレベルで評価する。
  - 2. 3年次の各領域での実習時に各技術項目がどのレベルで習得できているのかを評価した日付を記入する。
  - 3. 評価の記入後は担当教員の確認を得る。
  - 4. 最終評価は、卒業時の到達度レベル(I~Ⅳ)に到達しているかどうか○または×で評価する。

技術の種類						楚実習終了			Т		領域実習終了後						統合実習終了後 卒業時の					
<u> </u>			技術の種類	説明	A L	見学		経験	実施	1	説明	見学	経験	実施	説明	見学	経験	実施	到達度	最終評価		
			『護師・教員の指導のもとで、系統的な症状の観察ができる	<u> </u>		<u> </u>		i		_									П			
		113	『護師・教員の指導のもとで、バイタルサイン・身体測定データ・症状などか 患者の状態をアセスメントできる																П			
	_ــ	114 作	言護師・教員の指導のもとで、目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検 ▲の正しい取り扱いができる					ļ											П	l		
	症 状	115 君	「護師・教員の指導のもとで、簡易血糖測定ができる	!		!			!										п	1		
	生		言護師・教員の指導のもとで、正確な検査が行えるための患者の準備がで そる	!				-											п	1		
10	体 機	117 君	言護師・教員の指導のもとで、検査の介助ができる	į		į		-	į										П	1		
	能管理	118 君	言護師・教員の指導のもとで、検査後の安静保持の援助ができる	!		-													п	1		
	理技術	119 君	言護師・教員の指導のもとで、検査前、中、後の観察ができる			-		-	ļ										п	1		
	ניוער	120 न	Eデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる																ш	1		
		121	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわか																IV	1		
		122	・ 身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる					†											IV	1		
		123 7	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	-		-		1	<u> </u>	Т									I	1		
		124	fi護師・教員の指導のもとで、必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等) う装着ができる	<del> </del>		<del>-                                    </del>		<del> </del>	<del> </del>										п	1		
	感染		の表有がとさる 議師・教員の指導のもとで、使用した器具の感染防止の取り扱いができ	<del>-  </del>		<del>-  </del>		<del> </del>	<del>-  </del>	$\top$									п			
11	予 防	126 君	。 『護師・教員の指導のもとで、感染性廃棄物の取り扱いができる	+		+		<del> </del>	+	1									п	1		
	の技	127 君	f護師・教員の指導のもとで、無菌操作が確実にできる	<del></del>		<del>-  </del> -		<del>                                     </del>	<del>-  </del> -	1									п	1		
	術	128 君	言護師·教員の指導のもとで、針刺し事故防止の対策が実施できる			-		-	-										п	1		
		129 釒	  計刺し事故後の感染防止の方法がわかる					İ											IV	1		
		130	(ンシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	i		i		į	i	т									I	<u> </u>		
		131 5	後害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる							1									I	1		
	安 全	132 ह				-		<u> </u>	-	$\top$									I	1		
	領 域		「護師・教員の指導のもとで、患者の機能や行動特性に合わせて療養環境	<del>-  </del>		<del>-  </del> -		<u> </u>	<del>-  </del> -	$\top$									п			
12	管 理	124	宇安全領域に整えることができる 青護師・教員の指導のもとで、患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転 客・外傷予防ができる	<u> </u>				!	-	$\top$									п	1		
	の 技		音が下層で切かできる 言護師・教員の指導のもとで、放射線暴露の防止のための行動がとれる	<del>-  </del>				!		$\top$									П			
	術	136	学内演習で誤薬防止の手順に沿った与薬ができる																ш	1		
			   しなへのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる			-		-	-										IV			
H	安	138	言護師・教員の指導のもとで、患者の状態に合わせて安楽に体位を保持す 5ことができる	-		-													п			
13	楽 確 術保		ことかできる 「護師・教員の指導のもとで、患者の安楽を促進するためのケアができる					-		+									п			
	の	140 7	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	<u>!</u> !	$\dashv$	<u>!</u>		!	<u> </u>	+									п			
H	技コ	141 =	できる コミュニケーションの種類(言語的・非言語的)と相互作用のプロセスが理解	<u>!</u>		<u> </u>			<u> </u>	+									I	$\overline{}$		
	- III	141 7	できる。	- !	+	-	+		-	+										$\overline{}$		
	=		言護場面に応じた効果的なコミュニケーションを図ることができる		-	-		+	-	+									I			
14	シ		S発達段階の対象に応じたコミュニケーションを図ることができる		_			-		_									I			
	ン		月構成の意義を理解でき、プロセスレコードを通して自己洞察ができる 		_			<u> </u>		+									I	<del>                                     </del>		
$\mathbb{H}$		-	台療的コミュニケーションの技法について理解できる			<u> </u>	$\perp$	-	<u> </u>	+									IV	igwdow		
		146 🛪	対象者像をとらえるための情報収集ができる					<u> </u>		$\perp$									I	<u> </u>		
	£	147 🕏	対象者のアセスメントができる	<u> </u>	_	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	$\perp$									I	$\vdash$		
15	看護		f護の問題点を抽出できる	<u> </u>	_				<u> </u>	$\perp$									I	igwdow		
	過 程	149 君	<b>言護計画が立案できる</b>	<u> </u>				<u> </u>		$\perp$									I			
		150 君	言護計画を実施できる					<u> </u>		$\perp$									I			
		151 君	言護過程に沿って評価できる	<u> </u>		!		!	!										I			